

オナントゴン

アピカホールから
あなたに

Vol.87

2018.1月-3月

野島玲菜さん



福岡亨さん



吉川真也さん



濱地恵梨子さん



SAX PARTY!のメンバー

音楽の話・輪・和・Wa
私と歌と合唱と

うかわ先生の
おんがく談義

リサイタルを終えて
■寄稿 中安修也

■寄稿 野島玲菜

人と人を結びつける
「音楽のちから」



西脇市立音楽ホール

Apika
アピカホール

人と人を結びつける「音楽のちから」 SAX PARTY!

サクソフォン奏者 野島 玲菜 (SAX PARTY!所属)

「サックスだけでここまで出来るなんて驚きしかない」

「クラシックのコンサートは初めて来ました」

「眠たくならなかった！」

「今からでも始められる楽器って何かありますか？」

(シニア世代の方) 等々・。

これらのメッセージは、12名のサクソフォン・アンサンブル“サックス・パーティー”的アンケートに寄せられたもの一部です。公演のあと打ち上げ会場で読んだ、もの凄い回収率のアンケート。

この瞬間、『私のライフワークはこれだ！』と活動の意義を掴みました。

私たち“サックス・パーティー！”は、神戸新聞松方ホールでの定期公演を軸にしながら、大きな編成だけでなく、小さな編成でも様々な地域にお伺いして演奏する活動も行っています。

メンバーが順に企画をするサロン・コンサートのシリーズ。保育園、小学校での音楽鑑賞会。シニア・マンションでの交流イベント。アマチュア・プレイヤーの皆様とサックス談義をしながら腕を磨く短期講座、その名も『サックスのがっこう』まで、その内容は多岐に渡る。聴くだけでなく参加する喜びも共有し、いずれもお客様とメンバーの距離感が近いものばかりです。

今から約6年前、活動開始まもない私たちは本当に手探りの状態で公演を行っていました。と言うのも、自分たちのチームの趣旨や理想といった、本来先にあるべきはずの「行き先」がまだぼんやりしていたからです。しかし、もっと演奏がしたい！聴いてほしい！楽しい！どんな条件でも、どんな場所でも演奏する！という情熱は溢れていきました。

「どうしたらお客様も自分たちもみんなが楽しめる音楽会を作れる？」

とにかく、考えあぐねる毎日でした。

そんな時、音楽監督に就任していただいた須川先生の一言で原点に立ち返る事が出来ました。

『いかにサックス・ファンを一般の方々に



増やすか。
そして社会的ニーズのある団体になるか。』

サックス・ファンを増やしながら社会にも貢献するというバランスをとるもので、鑑賞初心者のお客様も楽しめる曲と、私たちがぜひ聴いてほしい曲（少し難しくても）をプログラミングして、色々な角度から皆の楽しめるものを探る日々が始まりました。

須川先生が音楽監督をして下さるのなら、私たちにも出来るかもしれない。

次の一步が見えた気がしました。なぜなら、これは須川先生がずっと取り組んできた事だからです。まだサクソフォンの歴史が浅く、特にクラシックの分野では認知度が低かった頃、他の楽器に比べて圧倒的に楽曲が少なかった中で、「誰もが聴きやすいプログラムを作る」「後に続くサクソフォン奏者たちに道を作る」という信念から様々な作曲家に委嘱をされ、レパートリーを開拓して来られました。

音楽そのものの魅力はもちろんですが、「人」と過ごした多くの幸せな記憶にはものすごいパワーがあると思うのです。コンサートの舞台では、作る人、支える人、受け取る人、たくさんのエネルギーが渦巻き輝きを放ちます。この幸せの連鎖は、人と人を結びつける「音楽のちから」だと思っています。

だからこそ、もっと近くでもっと皆様と結びつきたい。

西脇市でどんな音楽会が作れるか。改めてワクワクしています。

アピカホールでの公演実現に向けて、まずは4重奏で西脇市内2か所にお伺いします。楽しみに待っていて下さいね！



◆プロフィール SAX PARTY！(サックス・パーティー！)

プロ・サクソフォン奏者12名によるアンサンブル。2012年の結成以来、ザ・シンフォニーホール、兵庫県立芸術文化センター大ホール、大阪市中央公会堂、阪急うめだホール、神戸新聞松方ホールなど関西の主要ホールに次々と登場。

お子様対象の公演や、学校向けの音楽鑑賞会、屋外でのイベントにも出向き幅広いレパートリーで好評を得ている。また、ヤマハと「サックスのがっこう」を共同企画するなどアマチュア・プレイヤーとの交流も行っており、定期公演の際には共演コーナーを設ける試みを一貫して続けている。

アイディアを模索しながら音楽会を実現させる様子が、将来の音楽家を目指す若い世代からも高い注目を集めている。



野島 玲菜



浜地恵梨子



福田 亨



古川 真也

2月12日(月・休)・3月11日(日)

SAX PARTYから、今回は4重奏で市内2会場にサックスの魅力をお届けします。

お問い合わせはアピカホールまで。

リサイタルを終えて



中安 修也

(兵庫県立播磨南高等学校教諭)



12月3日(日)のリサイタルは、私にとって生涯忘ることのできないステージとなりました。小学生の時から幾度となくお世話になっているアピカホールで、デビューリサイタルを開催できることは、この上なく嬉しく、また感慨深いものがありました。これも、吉田館長を始めとするアピカホール職員の方々やスタッフとしてお世話になった演奏家登録制度の初期メンバーの皆様、そして、当日ご来場いただきました皆様のおかげと心より御礼申し上げる次第です。本当にありがとうございました。

大学院修了と同時に教職に就き、一旦は演奏から離れなければならないだろうと覚悟していた私にとって、リサイタルの開催などしばらくは縁がないものと思っておりましたので、開催が決定した時の喜びはひとしおでした。学生時代とは違い、校務の合間を縫っての演奏準備はなかなか大変ではありましたが、短い練習時間ながらもピアノに向き合えることに大きな喜びを感じ、自分にとってピアノがどれだけ大切なものであるかを改めて痛感しました。

思い起こせば、私とアピカホールとの関わりは、2001年の弘中孝先生との第1回目のデュオコンサートから始まりました。地元の、しかも子どもが、日本を代表するピアニストの弘中先生と一緒にステージに立つことができるというこの企画は、当時としてはかなりインパクトがあったのではないでしょうか。私はそれ以来、2004年の第2回目、2007年の第3回目と出演の機会があり、そして2016年のアピカホール開館20周年のコンサートでも再び先生と共に演させていただくことができました。先生との四度に渡る共演は、自分の音楽的知見を広げる又とない機会となりました。また2014年には、地元出身者で音楽系大学を卒業した人のお披露目演奏会となるフレッシュコンサートでもお世話になりました。今、こうして歳月の流れを感じるとともに、自分

のこれまでの音楽経験を振り返った時に、このアピカホールの存在というのは、私の中でとても大きなものだったのではないかと改めて認識しているところです。

さて、今回の公演は、アピカホールの事業の一環である演奏家登録制度の立ち上げとして、僭越ながら私が第一弾を務めさせていただく形となりました。この演奏家登録制度は、北播磨地域にゆかりのある演奏家が、このアピカホールを拠点として地域の音楽文化の向上を目指していくというものでありますが、昨今、十分な勉強を積んできた演奏家たちが、その研鑽の成果を披露する場がなかなか無い状況の中、この事業はひとつ地元演奏家の可能性を広げていくものに成り得るのではないかと思います。立ち上がったばかりですので、まだまだ課題があるとは思いますが、とても優れた音響設備を持ち、かつ、前述しましたように、私も出演させていただいた弘中孝先生のデュオコンサートやフレッシュコンサートを始め、その他にも様々な特徴ある事業を地域社会に対して展開してきたアピカホールだからこそ出来得ることも必ずあると思いますので、私も初期メンバーの一人として微力ながらお手伝いさせていただく所存です。今回の公演をきっかけとして、第二弾、第三弾と続いていくことを願っています。

最後になりましたが、今回の公演では本当にたくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。私も、今回のリサイタルをきっかけとして、今後も可能な限り演奏活動を続けていきたいと思っています。また皆様に演奏を聴いていただける日が来ますよう、更に研鑽を積んで参りたいと思いますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

♪出演者募集♪



アピカホールでは、地元出身で音楽系大学等を卒業するみなさんの今後の活躍を期待し、支援することを目的として開催します。

コンサート日：4月22日(日) 午後3時開演（予定）

対象：北播磨地域（西脇市、加東市、小野市、加西市、三木市、多可町）出身で、平成30年3月末に音楽系大学又は学科（短期大学を含む全てのコース）を卒業予定の方。

参加費：入場券30枚までの負担があります。（1,000円 当日券同額）

演奏時間：15分程度

申込方法：申込書に必要事項を記入の上、写真を添えて郵送又はご持参ください。

申込締切：2月9日(金)必着

舞台進行打合せ：4月上旬までに実施

・応募者数によっては、開催しない場合があります。その場合、次年度に出演していただきます。

・応募者数により、コンサートの開演時間及び演奏時間を変更する場合があります。



世界の名器スタインウェイピアノを広く子どもたちにも弾いてもらいたいと願い、開館当初から開催しています。夏休みの思い出として出演してみませんか？

コンサート日：8月25日(土) 午前の部／午後の部（申込締切後決定）

対象：西脇市在住又は市内でピアノを習っている幼児（4歳）から高校生まで（平成30年4月現在）。独奏、連弾、ピアノと声楽、管楽器、弦楽器との共演も可能。

参加費：無料

参加人数：70人(組)限定（先着順）

申込方法：申込書に必要事項をご記入の上、郵送又はご持参ください。（FAX可）

申込期間：2月8日(木)から3月8日(木) 12時必着

説明会：4月7日(土) 午前10時30分から

おもてなしとくつろぎのレストルーム



住設機器、建築資材、機械工具、省エネ商品

株式会社 藤田幸三商店 西脇市高松町633-18 TEL.0795-23-5995 FAX.0795-23-6564

総合建設業 一級建築士事務所

国土交通大臣認定鋼構造物製作工場

あんしん住宅瑕疵保険届出事業者



WAIKI CONSTRUCTION CO.,LTD.

和氣建設 株式会社

〒677-0018 西脇市富田町36

電話 0795-22-5651(代)



追悼号

忘れません うかわ先生

アピカホール館長 吉田 明生

うかわ先生が笑顔と音楽に対する多くの示唆を残し突然逝ってしまわれました。本当に残念です。ボナンタゴン（アピカホール発行の情報誌）の編集に最初から関わられ大きな貢献をされたお一人でもありました。先生は元同志社大学文学部の講師をされ、「西洋音楽史、中でもシューベルトの生涯と作品」を主な研究テーマとされていました。

さて、うかわ先生と私の出会いは今から3年前になります。常々アピカホールの役割について説かれました。例えば「若い人（音楽家）の育成のためにも、気軽に音楽を楽しめるホールをめざして欲しい」とか「西脇市をはじめとする北はりま地域を中心によりレベルの高い音楽をめざして活動している若い人たちの演奏するホールになって欲しい」とよく言われました。

ところで、うかわ先生は特にクラシック音楽に造詣が深い方でした。自らも数々のコンサートに足を運び自分の目や耳で確かめた中の論評は聞いていても魅力あるものでした。先生のカバンにはいつもお出会いされたすべての演奏家とのツーショットや今話題の各ホールのチラシがいっぱい詰まっていました。まさに先生のカバンは何でも出てくる魔法のカバンでした。

また、音楽について豊かな知識をお持ちの先生でも不確かな事柄は必ず名曲解説全集やクラシック音楽作品名辞典等でお調べになる姿を何度も目にしました。常に読んでいただ

く方に正しいことを伝えようと努力される姿勢がありました。

このように先生のいちばな思いが20年にも及ぶ「うかわ先生のおんがく談義」としてボナンタゴンのページを飾ってきました。しかしその談義も第69話で終わることになります。

先生との思い出をたどる終わりに、うかわ先生の第1回のテーマ「大作曲家シューベルトの祖父の子孫であるトマス・シューベルトさんにお会いして」であり、最終の投稿題は「ユダヤ人の大作曲家たち」（第1回）とあります。最終の内容でモーツアルトの死生観について記されています。鵜川先生が逝かれる前に死生観について記されたことはたまたま偶然でしょうか。編集会議はこれからも続きますが、いつも鵜川先生が笑顔で見守ってくださるような気がします。

鵜川真先生、本当にありがとうございました。そして先生がホールに期待された若者の育成は、フレッシュコンサートや「中安修也ピアノリサイタル」での思いに応える第一歩が踏み出されたと思います。

さようなら鵜川さん

西脇市文化連盟参与 越川 正三

鵜川真さんが逝去された。わたしよりも十五、六年も若かった。教わることの多いひとのご他界はまことに哀しく、寂しい。鵜川さんは、「うかわ先生のおんがく談義」を通じて専ら紙面上でのおつき合いであった。このページで鵜川さんは、音楽は申すに及ばずいろいろな話題を採りあげて穏やかな感想や、

そうかと思うと凛々しい姿勢のご見解を優しい口語体で書いてこられた。

野球の名投手の好球を連想させる心地よい達文で、変化球も絶妙だった。例えば、ユダヤ人は手の指の第一関節から先が長いという説を紹介し、その長い指でゆったりとヴィブラートをかけるから音が豊かになるという見解を記しておられるが、このくだりで断言するのを控えて「音が豊かになるのだと」と弱腰で躊躇あたりは心憎い。

ノーベル賞の受賞者にはユダヤ人が多いという鵜川さんのご指摘は、ユダヤ人がたぶん少数の人種であると推測できるだけに意外感があって読者の興味を惹きそうだ。わたしは、1989年の受賞者総数五百九十九人のうちの九十八人がユダヤ人であったというご指摘に感服したが、鵜川さんはここで、これは受章者六人に一人の割合だったと書き及んでおられる。これは読者の理解を助ける親切な気配りである。わたしは、ノーベル賞に関するお話を興味深いので、もっと書遺しておられたらよかったです。

鵜川さんのおんがく談義は終始寛容で静謐だから、わたしのような老人を寛がせる。寛がせながら音楽の楽園へ誘ってくれる。

真さん、良い作品群を遺してくださいって有り難うございました。ご冥福をお祈りします。

鵜川君のこと

アピカホール元館長 垣内 康孝

鵜川君が急逝したことを吉田館長から聞きました。一瞬、どういうことなのか分からず、順序追った説明でやっと理解できました。彼とは同級生なので「えっ？ うそっ ほんま？」という思いでした。

彼は、広報誌「ボナンタゴン」の編集委員として関わり、長い間「うかわ先生のおんがく談義」を担当してくれました。編集委員を彼に依頼したのは私でした。アピカホールは、1996年7月23日、竣工、開館しました。沢山

の人にホールを知つてもらうことから始めようと、故上角和夫氏（西脇文化連盟特別理事当時）にも加わって頂き、広報誌発行の準備を二人で進めていました。編集方針、形体など議論し、当時東京阿佐ヶ谷に開館した新国立劇場の広報紙と同じスタイルに決め、いろいろな人に執筆をお願いするなどし、何人かの方に編集委員に加わって頂きました。更に専門知識のある人の力も借りたいと思案していた時、思い浮かんだのが鵜川君でした。

大学でも音楽学を学びしばらく大学で講師をしていましたことは仄聞していました。

彼との出会いは半世紀余り前に遡ります。高校三年の時、初めて同じクラスになりました。寡黙で、彼がクラスメイトと話している姿は余り記憶にありません。彼は音楽を聞くことが最上の喜びだったようでした。どのような経緯だったのか思い浮かびませんが、彼のクラシック音楽論を聞く機会があり、その知識の深さに驚かされました。日を経たずして当時住んでいた板波町の自宅に行き、彼の推奨する楽曲を聞くことになりました。今、記憶をたどってみても彼が誘ってくれたのか、私から頼んだのかは思い出せません。覚えているのは、「シューベルトの未完成」を録音したカセットをソニーのプレイヤーに挿入しながら「ソニーの音は、少し冷たいのや・・・」と言い、曲が流れ始めると私との会話も途切れ、楽譜を見ながらスピーカーから流れる音に耳を傾けている姿です。

高校時代の彼との小さな縁が後日、「ボナンタゴン」でコラムを担当してくれることになったのです。「うかわ先生のおんがく談義」第六九話が絶筆となったわけですが、連載が始まった『ユダヤ人の大作曲家たち』の二回以降を楽しみにしていた者にとっては残念の極みです。

今でも、第70話を執筆し、独りシューベルトに耳を傾け、悦に入っている事でしょう。ご冥福をお祈りします。

鵜川さんへ

編集委員 岡本 芳雄

初めてお会いしたのは「ボナンタゴン」が始まった頃、もう20年以上前になります。

ボナンタゴン編集委員会でも、わくわくする話をいっぱい聞かせていただきましたね。内容と言えば、モーツアルトやシューベルトの生涯や楽曲の話、ヨーロッパクラシック音楽全盛の時代の演奏家の話、また「うかわ先生の音楽談義」のさらなる解説を、まるで今日起こっている出来事の様に話してくださいました。ずいぶん親しくさせていただいたので、最近は純真な鵜川先生をちょっといじりして皆で大笑いさせていただいてスミマセン。

まだまだ長いお付き合いをさせていただけるものと思っていたので、質問したい事も溜まっていました。今になると、アピカホールの宝物のような存在だったことを痛切に感じています。

69話にも及ぶ「うかわ先生の音楽談義」は、何度も読んでもクラシックのわくわくを感じることが出来ます。

今頃は天国でモーツアルトやシューベルトと音楽談義をされている事でしょうね。

鵜川さん、さようなら

編集委員 古谷 みどり

命はどこからやってきてどこにいくんだろう。鵜川さんの魂は、今ごろ天国でどんな楽しいコンサートに行かれて、素敵なアーティストと一緒にツーショットの写真を撮られているのかなあって想像しています。

今回の編集会議でも、鵜川さんがいつもの席で座られている感じがしました。最初のボナンタゴンから最近の号数まで読みながら、みんなで鵜川さんが喜んでくれることは何か

話し合って考えました。この3ページを今回は私たちが鵜川さんへ、メッセージを書くことになり内心、大慌てでした。

笑わないで読んでくださいね。鵜川さんの意思と音楽に対する情熱を受け継いで、できるかぎり、ホール情報誌をよりよいものにしていこうと（アピカホール）応援します！お疲れさま&ありがとうございました。辛いけど、最後のお別れをいわなければなりません。

追伸 もし、向こうでシューベルトさんに会われたら宜しくお伝えください。

鵜川さんの情熱に敬服

編集委員 依藤 孝

ある時、鵜川さんに「おんがく談義」のプロフィールにある同志社大学講師について尋ねたことがあります。彼は具体的な待遇について語ってくれました。「それでは生活はできないのでは」と言いますと、「その通りです」との答え。不安定な非常勤講師から、安定した大学受験予備校の英語教師になられたと想像しました。

境遇がかわっても鵜川さんの音楽学に対する情熱は、失せていません。本誌「おんがく談義」に遺憾なく発揮されています。音楽全般に関する勉強だけでなく、優れた演奏家のコンサートを探しては、鑑賞されるという行動派でもあります。

「次回の『おんがく談義』の内容は」と尋ねますと、「演奏会の紹介記事にしようかな」と言い、出演者の演奏力や魅力をアピールすることもありました。校正は編集委員の中で一番熱心。豊富な音楽知識で、記事の正確性を重んじる姿勢には感心しました。質の高い音楽情報誌発行の裏には、鵜川さんの情熱があったからだといえます。

ご冥福をお祈りいたします。

♪アピカホールの音楽教室♪

初心者ヴァイオリン教室



練習日 土曜日（月3回程度）

参加料 5,000円／月

※教材費・楽器貸出費別途

対象 小学1年生～中学3年生

※北播磨地域の方

内容 グループレッスン

年に一度、コンサートに出演

指導者 久保ふみ先生、山本英恵先生

西山枝里先生

弦楽アンサンブル教室



練習日 土曜日（月3回程度）

参加料 3,000円／月（教材費別途）

対象 小学4年生～高校3年生

※北播磨地域の方

※鈴木ヴァイオリン教本

1巻を修了程度

※4年生未満の方は要相談

内容 アンサンブルレッスン

年に一度コンサートを開催

指導者 藤井允人先生、西山枝里先生

久保ふみ先生、山本英恵先生

アピカ児童合唱団



練習日 月曜日（月3回程度） 児童18:00～19:15

混声19:30～21:00

参加料 児童 2,000円／月

混声 3,500円／月（コンサート負担金含む）

対象 児童 小学1年生～中学3年生

混声 中学1年生～一般

※西脇市、小野市、加西市、加東市、多可町在住の方または、西脇市内在学・在勤の方

内容 発声練習、呼吸法など基礎練習

指導者 百合花先生

混声Coroアピカ



アピカ和楽器教室

練習日 土・日・祝日（月2回程度）

箏：初級 9:00～10:30

中級 10:30～12:00

尺八：10:00～11:30

参加料 5,000円／月（教材費は別途）

対象 箏：小学1年生～大人 尺八：小学4年生～大人

※西脇市、小野市、加西市、加東市、多可町在住の方または、西脇市内在学・在勤の方

内容 箏のグループレッスン／尺八のグループレッスン 年に一度、発表会を開催予定

指導者 箏：新福かな先生 尺八：松崎晟山先生



私は、やっぱり歌うことが好き。小学校の頃は、母に色々な歌を教えてもらいました。台所で、当時流行っていたパンの歌を「パン、パン」と大きな声で一緒に歌いながら見合せたことも、懐かしい思い出。

そして、五年生の時は、新任の音楽の先生が山の小さな学校に赴任されました。

小学校の頃は、母に色々な歌を教えてもらいました。台所で、当時流行っていたパンの歌を「パン、パン」と大きな声で一緒に歌いながら見合せたことも、懐かしい思い出。

大学の入学式の後、綺麗なお姉さまたちが、カリキュラムの立て方を優

高校三年生の文化祭では、級友の勧めについ調子に乗って、のど自慢大会に出場。何と最優秀賞に輝きました。その時の表彰状は、今でも大切に残しています。

(和田町在住)

編集後記

あけまして、おめでとうございます。2018年は戌年です。年の始めには、『どんな年になるのだろう』と気になってきます。十二支は元旦の日に神様のところに到着した順番で決められました。なんと猫もいたそうです。なぜ猫が十二支にないのかというと、猫はねずみ（子）に騙されて、元旦の次の日に着いたようで、それで猫はネズミを追いかけるようになったという説もあります。面白いですね！戌年の人の性格などいろいろ思いをめぐらせていると、十二支のうちの11番目、性格は義理人情に厚くて忠誠心も強くありながら、他人から干渉することを嫌い独立独歩の人らしいです。因みに犬がテーマの曲は、なんと言っても子犬のワルツです。コロコロしてしつぽをふりふりで、可愛い感じがします。ショパンの曲からどんな犬か？想像したり楽しいですね。あっ、犬のおまわりさんもありました。これ以上、編集後記を書くと困ってしまってワンワンワンと校正をするとき言われそうですね！（green）



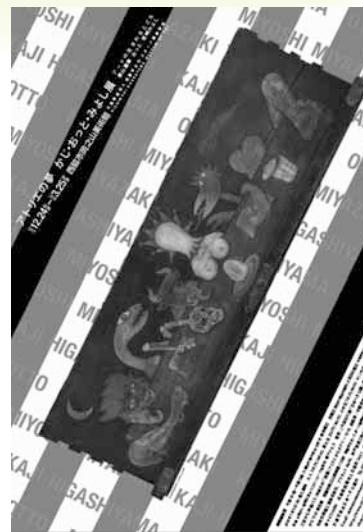
私と歌と合唱と

岡本 悟

●第14回企画展

「アトリエの夢ーかじ・おっと・みよし」展 ～平成30年3月25日(日)～

現代美術家の東山嘉事、おとと、宮崎みよしのユニークで遊び心溢れる作品を、創作現場の雰囲気とともに紹介！



《「アトリエの夢ーかじ・おotto・みよし」展ポスター》

開館時間 午前10時～午後5時（入館午後4時30分まで）

入館料 大人310円(260円)、高・大学生210円(160円)、小・中学生110円(80円)

※()内20名以上団体割引料金

※ココロンカード可、障がい者割引有

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日



●アトリエ

「アトリエ個展シリーズ」

近隣在住の作家による個展を開催します。

VOL.1 ●井上 仁 展 (洋画)

12月24日(日)～
平成30年1月21日(日)

VOL.2 ●尾形 良一 展 (日本画)

1月23日(火)～2月12日(月・祝)

VOL.3 ●旗手 愛子 展 (油絵)

2月14日(水)～3月4日(日)

VOL.4 ●山田 耕造 展 (洋画)

3月6日(火)～3月25日(日)

※アトリエは入館無料

※各会期の最終日は展示替えの為、午後3時まで。

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>
ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。
ブログ「美術館日記」もご訪問ください。

豊かなフィールドで釣りができる喜びを大切に。



株式会社オーナーばり

本社 / 〒677-0018 兵庫県西脇市富田町120
TEL.0795-22-1433 (代) : FAX.0795-22-6003

会議・セミナー・展示会・パーティ・同窓会 承ります

西脇ロイヤルホテル



〒677-0015 西脇市西脇991
TEL.0795-23-2000 FAX.0795-23-8604

詳しくはオフィシャルホームページで
<http://www.nishiwaki-royalhotel.jp> 西脇ロイヤルホテル 検索

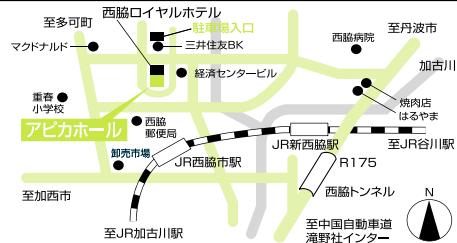
アピカホール 催しガイド

1月~4月

休館日：毎週水曜日(祝日の場合翌日)

月/日(曜日)	催物内容	時間	入場料等	主催・問合せ	特集記事
1/7(日)	平成30年 西脇市成人式	11:00~	関係者	西脇市教育委員会 青少年センター ☎0795-22-4000	
1/13(土)	西脇市文化連盟結成60周年記念式典	10:00開式	関係者	西脇市教育委員会 生涯学習課 ☎0795-22-5996	
1/28(日)	「アピカ・ミュージック・トレイン」 ～みんなのホールコンサート～	13:00開演 (12:30開場)	500円 (駐車料金別途)	アピカホール ☎0795-23-9000	
2/3(土)	西脇市多可郡医師会 設立70周年記念式典	14:30開式 (13:30開場)	関係者	西脇市多可郡医師会	
2/4(日)	蓄音器で味わう名曲シリーズ ～クラシックの名曲の世界～	14:00開演 (13:30開場)	500円	アピカホール ☎0795-23-9000	
2/10(土)	西脇市山田錦生産者大会 基調講演「消費者から見た山田錦のお酒の魅力(仮)」 フリーアナウンサー あおい有紀氏	13:30開演 (12:45開場)	無料	日本のへそ西脇・日本酒でおもてなし実行委員会 ☎0795-22-3111	
2/12(月休)	SAX PARTY!	調整中	無料	アピカホール ☎0795-23-9000	P2-3
2/25(日)	第10回西脇ロイヤルホテルカラオケ祭り ～スーパー歌姫 東亞樹ちゃんがやってくる～	10:00開演	300円 (小学生以下無料)	西脇ロイヤルホテル ☎0795-23-2000	
3/4(日)	アピカ名画座 ～誰がために鐘は鳴る～	①14:00~ ②18:00~	調整中	アピカホール ☎0795-23-9000	
3/17(土)	2018春のカルチャーフェスティバル 市民音楽祭	13:30開演 (13:00開場)	500円 (駐車料金別途)	西脇市教育委員会 生涯学習課 ☎0795-22-5996	
3/25(日)	Apika Junior Strings 第6回コンサート	15:00開演 (14:45開場)	無料	アピカホール ☎0795-23-9000	
4/6(金)	アピカ児童合唱団・混声Coroアピカ 6thコンサート	19:00開演 (18:30開場)	調整中	アピカホール ☎0795-23-9000	

* 主催者の都合により変更になる場合があります。内容についてのご質問は、各主催者までお問い合わせください。



■交通アクセス

<バス>中国ハイウェイバス西脇営業所行き

「西脇」下車すぐ。

三ノ宮~西脇線（神姫）「西脇」下車すぐ。

<鉄道>JR加古川線「西脇市駅」より徒歩約20分。

<車>中国自動車道 滝野社ICより国道175号線を北へ約15分。

■編集：ボナンタゴン編集委員会

■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」
ボナンタゴン：こんにちは
(エスペラント語)

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991

TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/>
E-mail : apikahall@ever.ocn.ne.jp

このガイドは2017年12月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。

アピカホール ボナンタゴン 検索 ◀ホームページでもご覧いただけます。